

# 【優 秀 賞】



氏 名 KHATRI KRISHNA  
(カトリ クリシナ)

国・地域 ネパール 

在日期间 1年3ヶ月

学 校 神村学園専修学校

## タイトル : もしもし

(電話の音)「もしもし、アルバイトのクリシナです。店長いらっしゃいますか。すみません、電話を代わってもらえませんか。はい、お願いします。あ、店長、おつかれさまです。次のシフトについて聞きたいんですが、よろしいでしょうか。あ、はい、はい、うん、そうですか。はい、わかりました。はい、ありがとうございました。失礼します。」

みなさんは最近誰と電話で話しましたか。私たち留学生は日本ではアルバイト先の人だったり、日本人や他の国の友達、あとは学校の先生がほとんどだと思います。そのとき、必ず言う言葉は「もしもし」ですよ。では、今日この会場の中に「もしもし」という言葉の意味を知っている人が何人いるのでしょうか。

「もしもし」という言葉が生まれたのは電話が日本で使われるようになった100年以上前のことらしいです。長い歴史の中ではけっこう最近できた言葉なんですね。「もしもし」というのは「これから何か申し上げますよ」という意味で「申し上げます申し上げます」と言っていたものが長くて言いにくいので、短くなって「もしもし」になったと言われています。元々は相手に丁寧な気持ちで話したいという気持ちがあるので敬語の「申し上げます」という長い言葉を使ったそうです。私はこのことを死ぬほど嫌いな日本語の読解の授業で知りました。なんと！驚いたことに、私の周りの日本人にも知らない人がいました。どうですか、みなさん、このことをご存知でしたか。

これが授業で知った「もしもし」の由来です。他にも、「行ってらっしゃい」には「無事に帰って来て下さい」という意味があること、「ご馳走さまでした」には「いい料理を作ってくれた人の手間暇や生き物の命に感謝します」という意味があることを習いました。いつも意識せずに使っていたあいさつの言葉には実は深い、深い意味があったのです。

日本に来て1年が過ぎました。まだ食べられない日本料理もあるし、学校のみんなで

温泉に行った時も恥ずかしくて、日本はまだ遠い国だと感じていました。しかし、今ではネパールからの電話でも、つい「もしもし」と言ってしまいそうになります。意味を知ってしまった以上、「いってらっしゃい」も「ご馳走さまでした」も言わないとなんだか気持ちが悪くなります。学校で習う前から使っていたこれらの言葉の由来を知り、込められている意味に共感しました。今、これらの言葉を通じて日本はもう遠い国ではないと感じています。

ご清聴ありがとうございました。